

平成24年度 第1回公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成24年11月1日（木） 午後3時から午後4時30分まで

【場 所】 公立能登総合病院 会議室（3階）

【出席者】 17名（委員6名、当院8名、事務局3名）

（委員） 松木会長、小林委員、佐原委員、宮川委員、堀江委員、和田委員

（当院） 川口事業管理者、藤岡病院長、池野副院長、出村経営本部長、丸岡総務課長
寺尾管理課長、谷診療支援課長、坂本地域医療支援副センター長

（事務局）水口経営企画課長補佐、羽石専門員、宮本主事

【内容】

1 開会のあいさつ

＜川口病院事業管理者＞

本日は、天候の悪いなかお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

当院は、経営改革の成果もあり、平成23年度は約2億3,000万円の黒字を計上できました。

本日の協議会では、平成24年度上半期を振り返りながら、改革プランの進捗状況や診療棟等増築工事の説明を行い、皆さまからの活発なご意見を賜りたいと思います。

2 協議会委員紹介及び協議会出席職員の紹介

3 議件

＜松木会長＞

本日は、お忙しいなかお集まりいただきましてありがとうございます。

本日の協議会では、今後の公立能登総合病院の運営の参考になるよう、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

（1）公立能登総合病院の経営状況等について

- 平成24年度上半期には、院内コンサートや病院フェスタ、職場体験の学生の受け入れ等で地域に開かれた病院をアピールするとともに、BSC発表大会や自治体病院経営研究会など、経営改善に関わる活動にも積極的に取り組んできた。また、現在は透析室や内視鏡室を含んだ新しい診療棟及びコンビニエンスストアを建設している。
- 平成24年度の診療報酬改定では0.004%とほぼ変わらなかったため今年度の収益はやや低調に感じるが、平成19年を底に少しずつ改善しつつある。これは、診療収入の増加のために、きめ細やかな見逃しのない診療に取り組んできた結果だと感じている。
- 診療収益を昨年度と比較すると、8月と9月が減収になっているが、これは入院単価の減少が主な要因である。しかし、例年下半期の収益が黒字を後押ししてきたので、下半期の数値が重要である。
- 当院は、急性期医療特化のために地域医療連携を推進しており、外来患者数はここ数年減少傾向にある。なお、外来診療単価は順調に上がっている。
- 予算上は、医業収益は昨年度比で月平均1,751万円増収の予算を組んであるが、実際は月平均978万円の増収に留まっている。そのため、医業収益、材料費、経費のみから見た今季の収益予測は▲7,600万円となっ

ている。しかし、過去数年もこれより大きい赤字予想から黒字を計上してきたので、あまり問題はない。

- ・ 新病院完成から12年が経ち、当院を取り巻く環境も変わりつつある。今後も、精神センター外来患者の増加に伴う増築工事、高額医療機器の更新などが目白押しになっている。それらを行うために、黒字経営を継続しなければならない。
- ・ また、医療には不確実性が伴うことを住民に理解していただかなければならない。医療とは、結果を保証する公共サービスではなく、患者と寄り添い苦痛を共有していく公共サービスである。その中で細心の注意を払い、最大の効果が出るように、今後も医療の提供に取り組んでいく。
- ・ 七尾鹿島広域圏事務組合は平成25年3月31日をもって解散する予定となっている。当院は七尾市の病院となり、それに伴い職員も七尾市職員となる。ただし、今後も病院事業管理者は一定の権限を与えられたうえで、病院の運営を続けていくことになる。

<佐原委員>

七尾鹿島広域圏事務組合の解散の経緯はどういうものなのか。

- 市町村の合併等に伴い、七尾鹿島広域圏事務の今後のあり方について話し合いが行われ、解散という流れになった。

<佐原委員>

これからインフルエンザが流行する季節になるが、病棟が満床になり救急車が受け入れできない状態になった場合はどうするのか。

- 患者が入院した時点で、退院までの流れに関する計画を早急に作成し、在院日数を減少させることで対応していきたい。

<佐原委員>

消費税が10%に増税した場合、公立能登総合病院の控除対象外消費税はいくら程度になるのか。

- 現在は1億円程度なので、消費税が10%に増税した場合は2億円程度になる。

(2) 公立能登総合病院改革プランの進捗状況について

- ・ 当院では、平成17年度に「経営改革のシナリオ」を策定し、平成18年度から経営改革を集中的に実施し、単年度赤字額を大幅に圧縮するなど、経営状況の改善を図ってきた。平成20年度には、第1次改革の実績を踏まえ、さらに改革を継続・発展させるために「第2次経営改革のシナリオ」を策定し、平成21年度から実施した。
- ・ また、経営改革に取り組む一方で、公立病院として住民に信頼される良質で安全な地域医療を提供するため、救急医療、精神医療、へき地医療など政策医療・不採算医療に取り組みつつ、医師・看護師等の確保に努め、能登地域における中核的な医療機関を担っている。
- ・ 改革プランの実施状況については、年1回以上点検・評価をすることとなっている。当院では、評価の客観性を確保するために、有識者や地域住民の皆様によって構成されている「病院協議会」において点検・評価をいただいている。
- ・ 平成23年度の病院事業では、「第2次経営改革のシナリオ」による経営改革に取り組むなか、地域に開かれた病院を目指して病院フェスタを継続開催し、地域住民の健康と福祉の増進に努めるとともに地域医療支援センターを開設し、「2人主治医制」を推進及び地域の医療機関とのスムーズな連携にも努めた。また、「第2次経営改革のシナリオ」から更なる持続可能な健全経営を確立するために、改革プランを更新し、「第3次経営改革のシナリオ」を策定した。さらには、「地域がん診療連携協力病院」の指定を受け、がん相談支援室及び緩和ケア外来を開設し、がん診療の充実を図った。
- ・ 平成23年度の決算状況は、約2億3,000万円の黒字となった。企業債残高については、平成14年の新病院建設時の約170億円から、平成2

3年度には約120億円まで減らすことができた。現金預金残高については平成19年以降少しずつ上昇し、平成23年度には約28億円となった。

・ 経営指標に対する数値目標の達成状況について

＜財務内容の改善に関するもの＞

経常収支比率 (H23年度目標 100.1%) (実績 102.6%)

医業収支比率 (H23年度目標 97.9%) (実績 98.7%)

職員給与費対医業収益比率

(H23年度目標 55.5%) (実績 55.5%)

材料費対医業収益比率

(H23年度目標 21.0%) (実績 21.1%)

病床利用率 (一般)

(H23年度目標 84.2%) (実績 88.9%)

病床利用率 (精神)

(H23年度目標 80.0%) (実績 80.9%)

患者一人当たり診療収入 (一般入院)

(H23年度目標 42,931円) (実績 44,025円)

患者一人当たり診療収入 (一般外来)

(H23年度目標 11,332円) (実績 11,707円)

患者一人当たり診療収入 (精神入院)

(H23年度目標 14,834円) (実績 15,494円)

患者一人当たり診療収入 (精神外来)

(H23年度目標 6,490円) (実績 6,055円)

＜医療機能確保に関するもの＞

一日平均 入院患者数 (一般)

(H23年度目標 278.0人) (実績 293.3人)

一日平均 入院患者数 (精神)

(H23年度目標 80.0人) (実績 80.9人)

一日平均 外来患者数 (一般)

(H23年度目標 790.0人) (実績 834.7人)

一日平均 外来患者数 (精神)

(H23年度目標 143.0人) (実績 138.5人)

臨床研修医数

(H23年度目標 6人) (実績 4人)

＜佐原委員＞

七尾市の病院となった後は、中能登町からの繰入金はどうなるのか。

→ 中能登町分の繰入金の算定を七尾市が行うことになるため、七尾市から中能登町分を含めた繰入金が入ることになる。

＜佐原委員＞

全国の他の公立病院の経営状況も改善されつつあるのか。

→ 平成23年度では、約50%の公立病院が黒字経営となっている。

＜堀江委員＞

現在、未収金の累計額及び単年度の未収金額はいくらくらいになっているのか。

また、未収金回収のためにどのような取り組みをしているのか。

→ 平成23年度で未収金の累計は約4,000万円、単年度では毎年約600万円となっている。未収金回収の取り組みとして、4か月に1度診療費未納の案内を送り、年度を越えて納付が無い場合は督促状を送っている。また、職員が直接未収金の回収に伺う場合もある。

＜堀江委員＞

未収金を欠損金として処理することもあると思うが、何年間経過したものを欠損金としているのか。

- 未収金の時効は3年間という最高裁の判例もあるが、地方公営企業法や議会の議決等を含め、当院では10年間未納だった場合は欠損金として処理をしている。

＜佐原委員＞

督促状を送付する場合は、七尾市が行っているのか。

- 督促状の送付は、当院が行っている。未収金については決算審査でもよく出る話だが、当院は地域住民のための病院という位置付けであり、住民に強く未収金の回収を行うことは難しいと感じている。未収金について未納者と話し合いをし、分割で払ってもらするなど、少しでも未収金を減らすための工夫をしている。

＜堀江委員＞

未納者に、差し押さえ等の手段を取ることはあるのか。

- 差し押さえなどは行っていない。もし行くとすれば、市役所などと話し合いをする必要がある。未収金の回収が病院の経営に大きく影響するのであれば、強く取り組むが、今のところ未収金は当院の経営に大きく影響していない。また、民間業者に債権回収を委託している病院もあることから、今後、当院も検討していく可能性がある。

＜宮川委員＞

今後さらに高齢化が進んでいく中で、これからの公立能登総合病院の運営についてどう考えているか。

- 当院は公的な病院であり、地域に住む皆さまが精神的・肉体的・経済的に豊かになるために存在している。病院だけが利益を上げ、住民が悲しむような病院運営はしてはいけない。地域住民の皆さまがどうすれば幸せになるかを常に問いながら病院運営をしていきたい。

＜和田委員＞

外来患者を減らし入院診療の充実を図っていくために、どのような方法をとっていくのか。

- 現在は、入院患者は比較的充実している。一般病床は330床あるが、満床にしまうと急な入院等に対応できなくなるので、常に290床程度が埋まるようにしている。また、外来患者については、一番多い頃は一日に平均約1,200名だったが、現在は約830名となっている。今後は地域医療支援センターの職員が中心となり「2人主治医制」の推進を行うことで外来患者数を減少させていきたい。

(3) 診療棟等増築工事及びコンビニエンスストアの設置について

- ・ 人工透析及び内視鏡検査の患者数が増加しており、現在の設備ではスペースが足りなくなっている。また、職員の増加に伴い、広い休憩室や会議室も必要になってきたため、診療棟等増築工事を行っている。工事は平成24年6月に着工し、平成25年3月29日に竣工予定。1階はロビー、器材庫及び組合事務室、2階は内視鏡室及び透析室、3階は事務室、4階は大会議室及び職員休憩室となる。
- ・ コンビニエンスストアの設置については、現状は売店だが、営業時間の拡大等の要望が多かったためコンビニを設置することになった。平成24年8月にコンビニ棟増築工事を着工し、現在はローソンと契約を結び、平成24年12月中頃に営業開始予定となっている。

＜佐原委員＞

大会議室は、何人くらい入る大きさなのか。

- 約200人が入り、広さは現在の会議室の倍程度となる予定である。

<和田委員>

ローソンとの契約はフランチャイズなのか。

- 当院とローソンは店舗賃貸借の契約を直接結んでおり、ローソンと営業者がフランチャイズ契約を結ぶことになる。

(4) 意見交換・質疑応答

<和田委員>

改革プランには、職員のクオリティーコントロールについて触れられていない。公立能登総合病院の医師、看護師、事務員等全職員にもっと笑顔でいていただきたい。前回の協議会の際に受付の接遇に対する意見があったように、職員の性格によって患者への対応が大きく異なるのは良いことではない。受付や看護師の一言で患者の心が癒される場合も多くあるので、今以上に気遣いのある対応をしていただきたい。

- 外来は患者数が多く、困っている方への対応が不十分な面があった。そこで、現在は外来にフロアマネージャーを配置し、困っている患者さまやご家族の方の話を聞き、不満を解消してもらう取組みを始めた。これからも患者さまの不満がなくなるように取り組んでいきたい。

<和田委員>

他院では、電話対応などが非常にすばらしいところもある。公立能登総合病院もぜひ接遇向上に取り組んでほしい。

<宮川委員>

地域住民が病気になる前に、出前講座等の予防になる活動をこれからも積極的に取り組んでほしい。

<小林委員>

七尾鹿島広域圏事務組合が解散した後は、議会の対応はどうなるのか。

- 七尾市議会に病院事業管理者等の病院職員が説明員として出向くことになる。

<小林委員>

以前から職員の接遇についての話はあるが、だんだん良くなっているように感じている。これからも地域住民のために頑張っていてほしい。

(5) その他

-その他議題は特になし-

4 その他

(1) 次回の開催予定について

次回の協議会は、平成25年2月もしくは3月に開催予定。

5 閉会のあいさつ

<藤岡病院長>

本日は、長時間にわたりご協議をしていただきありがとうございました。当院では、今年度も病院フェスタの継続開催等、地域に開かれた病院として様々な活動を行ってきました。今後もこのような活動を積極的に行いつつ、充実した医療サービスの提供に取り組んでまいりますので、皆さまにおかれましてもより一層のご協力をお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

(午後4時30分閉会)